

“就職力”



7

資格に勝る実務能力

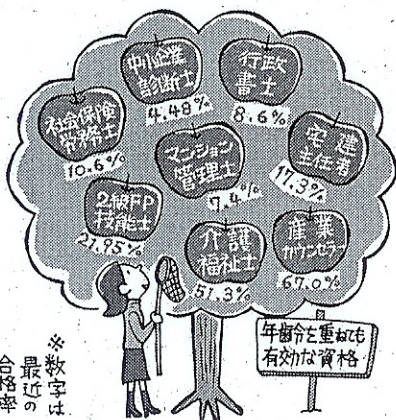
「どんな資格が就職に有利ですか」と、再就職のためのセミナー会場よく尋ねられます。しかし明確な返答ができず、困ってしまうことが多いのです。

企業は、資格に対する評価として、「取得した努

力」は認めるが採用決定の決め手にはならないと言います。それよりも、例えば「以前の会社で人事部長だったとき、たくさんの方の悩みを聴き、相談に乗る機会が多かったので、キャリアアカウンセラーの資格を取りました」と聞くとき、その人の仕事に対する姿勢が伝わってきます。資格をどのような目的で、どんなタイミングで取得したかが大切ではないでしょうか。

読者の皆さんには、資格が仕事を運んできに勝る実務能力を身に付け

てくれることはまれです。仕事に必要な知識を得るため、あるいはその資格が仕事の上で役立つなど、資格取得の目的が明確なことが大事です。わたし自身、その時々で必要だと考える資格を取ってきました。資格は結局、役に立ちませんでしたが、取得の過程の中で果敢に何かにチャレンジするバイタリティーが身に付いたようです。



※数字は最近の合格率

「ですが」といった声を聞きませんが、町内会やPTAの役員を通じて身に付けた力は、ビジネスの中でも活用できる能力に変換できます。地域活動を通じて培った計画力、協調性、リーダーシップ、判断力などは、ビジネスの土俵で大きな力になるのです。

最近「エンプロイアビリティ」という言葉がよく使われます。「雇用され得る能力」(人材教育コンサルタント 坂巻美和子、イラストは長縄キヌエ) 木曜日に掲載します